

# スモールイズ ビューティフル

平成20年2月4日  
青年塾7期生 香川 湧慈



志ネットワーク会員の皆様はじめまして。青年塾七期生関西クラス香川湧慈と申します。

上甲塾長よりのご依頼で、未熟ながら私の考え方を述べる機会を与えて頂きました。また、十二月二日のデイリーメッセージでも、私の事を掲載して頂きました。どうぞ、よろしくお付き合い下さいますようお願い申し上げます。

## 貧乏の味を知った幼少時代

私は昭和三十七年一月生まれです。小学校入学直前の三月に父を交通事故で亡くし、母子家庭で育ちました。現在のような保険制度が充実していれば、いくばくかのお金も入っていたのでしようが、加害者は刑務所に入っただけで、殆ど保険金は入ってこなかったようです。このため経済的な意味での貧乏の味は知っているつもりです。家はボロ家で、服装はいつも学生服か体操服です。私服は小学六年間で二・三着だけでした。戦後間もない時代ならいざ知らず、その時代では信じられない

でしょう。そして、勉強なんて全然  
しませんでしたから、通信簿は社会  
科と体育を除けば、六年間殆ど1と  
2でした。

小学生のことですから、住んでいる  
家の事、着ている服の事、同級生  
たちから色々言われました。本当に  
悔しい思いをしました。その度に  
「何で、うちだけこんなや。父親が  
おったら、もつとええ家に住める  
のに。」と思っていました。

皆んな自分の自転車を持っていたり、  
部屋を持っていたりするのに、  
うちには自分の自転車も部屋も  
ありません。だから、人一倍「家」に  
対する憧れがありましたし、住宅の  
チラシを見つけると、いつも羨まし  
そうに見ていました。同級生から  
バカにされる度に「クソー、今に  
見とれっ！絶対見返してやる！」と  
何度この手の中に悔し涙を流した  
ことか。

私は、人間一番ヤル氣になる力は、  
悔しさの中から湧き出て来るんじや  
ないかと思っていました。

## 充実した高校生活、そして銀行マンへ

今思えば、小学生時代の家庭環境が  
私の心に負けん氣、勇氣、ヤル氣を  
培わせたような氣がします。そして、  
中学、高校と進む訳ですが、私は  
早く社会に出て働きたかったので、  
丸亀商業高校を選びました。そして、  
新聞配達をしながら高校生活を過ご  
しました。

高校生くらいになると、家が貧乏  
だからといって私を評価する人は  
いません。不思議なもので、クラブ  
活動を試験発表中（その期間は  
クラブ活動は通常休み）でも休む  
事無く、家で勉強はしませんでした。  
しかし普通科ではない商業高校  
だったからでしょうか。授業に  
集中しただけで、成績は学年で二番、  
男子で一番、卒業生総代として  
卒業証書を授与され、丸亀商業高校を  
卒業することが出来ました。

そして銀行に就職しました。思いは  
実現するというのか、実は経済的に  
貧乏だった所為か、高校一年の時の  
作文に「将来はお金を扱う仕事、  
造幣局か銀行に勤めたい」と書いて

いました。

また、同級生の親からは「香川君は  
母子家庭だったのに、いい所に  
就職出来て、立派になって…」と。  
高校時代の私を知っていますから、  
評判は良かったのですが、自分の  
事は自分が一番知ってます。目標も  
無く、毎日をただ何となく過ごして  
いました。

当時、銀行の職場は大変楽しく、  
十八歳から二十二歳までの四年間、  
仕事が終われば毎日のごとくパチンコ、  
麻雀、飲みに行く生活でした。  
そんな生活に特に不満は無かったし、  
おそらく一生ここでお世話になるの  
だろうと思っていました。

## 人生の転機

ところが、二十二歳の時に転機が  
訪れました。

友達に誘われて生まれて初めて  
「自己啓発セミナー」なるものに  
参加したのが、私の人生観を変える  
キッカケになったと言っても過言では  
ありません。そこに参加している  
同世代の人達の、ものの考え方、

生きる姿勢に感動を覚えました。当時、私より年下の人達が、自分の人生に目的、目標を抱いて、共に夢を語り合っているのを目の当たりにして、自分が恥ずかしくなりました。「自分より、年下なのに、何でこんなに生き生きしとんや。何がそうさせるんやろうか。」と思いましたし、「自己啓発」というものに興味が湧いて来ました。そうやって来ると、現状に不満は無かったのですが、何か燃えるものはハッキリ言って銀行員生活の中にはありませんでした。

それからです、私のライフスタイルが変わったのは。そのグループの人達から言われました。「サラリーマンの仕事も満足に出来なくて、独立して成功するはずが無い。」と。私は今まで以上に仕事をやりましたし、遊びは止めて「自己啓発」に取り組みました。そして段々と、「自分は将来こうありたい」という目的がハッキリして来ました。それは、人に勇気や感動を与えることで、人生を燃焼したい！という念いです。そのためにはまず、自分が惚れ込める

仕事で独立して、人が感動するような会社を築いて行けば、来たるべき将来、人に勇気と感動を与え続けられる人物になれるんじゃないだろうか、という考えが心の中に芽生えて来たのです。

### ルイボスティーとの出会い

その翌年二十三歳の時に現在の仕事となっている商材「ルイボスティー」との出会いがありました。そして、当時の自分の考え得る限りの客観性で以って、商いとして永続性が成り立つのか否かを考えました。当時のメモに内面と外面をこう綴っています。内面は「全社員の心豊かな生活が実現するということ、自分の心が豊かになること



るいぼす物語

ある。心豊かとは、まず第一に、健全(人の道)なものの考え方が出来、身体の健康に留意していること。次に、文化的な生活を過ごす為の経済力が持てること。世の中では経済的な問題の為に争い事が生じたり、人間性が墮落して来る人が多いように思う。ある程度の経済力を持つことで、回避出来るのではないかと考える。そして、より多くの人との出会いをすること。出会いが自己の人間性を高めるキッカケになり、生涯自己啓発に努めることで、人間性を高めて行ける。また、相手に良い影響を与えること。それを実感出来ることが、心の豊かさにつながる。

今からやろうとする会社経営は、自分の人生設計そのもの。自分の生き様を通じて、他人に勇気を与え、生き甲斐を感じてもらえるような人物に成ることが自分の目的。一生賭けて達成出来るかどうか分からないが、チャレンジし続ける。会社は家族だ。これが一番絆が強い。家族的企業を築いて行こう。」そして「最大と成るより、最良と

成る」と。外面は、ルイボステイラーの仕事と銀行員の業務とを8S（ローマ字で書くとSから始まる）で比較したことが記憶に残っています。金の無い、人脈の無い人間が脱サラするのだから、自分の信用一本でお客を築いて行けるものとして、

1. 将来性
  2. 社会性
  3. 収益性
  4. 市場性
  5. 消耗品
  6. 小資本
  7. 終身現役
  8. 仕事の価値観
- と綴り、比較したのです。ルイボステイラーには8つ全てに丸が付きました。いみじくも銀行員には4つの丸でした。ルイボステイラーは、「安全で、おいしく、健康的で、経済的（1・4リットルで約六〇円）な日常生活飲料」だから、一般の人達に経済的負担少なく、死ぬまで飲んで（購入）もらえる商品だと。「信頼関係の輪を広げながら愛飲者を築いて行こう」と。それが二十三歳の青年が真剣に考えて考え抜いたものでした。



エモーション・ルイボス  
スタンドパック

### スモールイズビューティフル をめざして

さて、タイトルの「スモールイズビューティフル」の話に入ります。二十二歳で独立を志し、二十三歳で商材と出逢い、心の中の強い自分と弱い自分の葛藤の日々が三年八ヶ月。実際独立したのは、昭和六十三年四月二十六歳の時でした。金額と書くといけないのは「金」に目が行く。私は過去の自己啓発セミナーで「額」のことを学んでいましたので「信用」をベースに「お客を頁（ページ）に綴る」ことに努力し続けようと考えました。つまり「金」があっても使えば無くなる。ですが「お客を頁に綴っていけば、生活出来る」と。世の中のおそらく九十%は中小零細企業と

呼ばれる会社だと思っています。それらに勇気を与えるため、「これが日本の零細企業！」というお手本、雛形を目指したい。といつしか思うようになりました。

人情に溢れ、無借金経営で、手形を切らず、社長も社員も人間性を磨き合っている。社員がワクワクして出社する状態。得意先、お客さんからも愛されている「常連客日本一のルイボステイラー販売会社を目指そう。」と。また、二十代で学んだ家族労働には、労働基準法は適用されない。年中無休二十四時間働いても家族には適用されない。ということが、何かしら潜在意識に埋め込まれていて、他人であっても家族の意識を持った社員で固めたいと思うようになったのではないかと思います。だから、情が湧きにくい、多人数の会社にはしたくないという無意識の概念が備わっていたのだと思います。全ての責任は社長一人が取るものと自覚していますが、やはり自分も人間ですから、どんな状況になっても全財産捨ててまで「守りたい」と思える「情」の通い合った社員で

ないと、仕事する甲斐が無いなあと感じたことがベースになっていると思います。

### 社員の子どもは私の孫

平成元年から十四年までは二十四名のスタッフでやっていましたが、私はパート社員にも退職積立金を掛けていまして、ある時株主の方から「香川君、気持ちは分かるけど、お前パートの人に退職積立してる会社や無いのとちゃうかあ。ごつつ儲かっとするのやったら、まだしも、こんな状況で……」と言われました。実際、平成十四年十月末日で全員を会社都合で解雇しました。(保険会社なら積立を解約出来るのですが、国に掛けていたため、実際に退職



赤ちゃんのための  
特撰るいぼす茶

しないと振り込まれないので)その結果、各々に中退金から退職金が振り込まれ、皆に臨時ボーナスのようなかたちになりました。

その一方、経営指針の再構築を当時考えていましたので、翌日、この指に留まれと出した方針に「共に歩みましょう」と残ってくれたのが現在の社員たちです。(仕事同じで給料三分の二の条件)中には、女一人で子育て中の人もいて、それでもエモーションが好きだからと夜中は大手の経理事務のアルバイトを、週に数日掛け持ちしながらもうちに来たいと言って、今でも働いてくれています。昨年度の決算は売上高経常利益率二八・五%でした。うちは、パート社員を含めた皆に、退職金一千万は出すことを言っています。

「何百人も居てたら、出したくっても出せないからなあ。」と以前皆に言ったことがあります。すると「社長、これ以上人数増やさないで下さい。私たちこなしますから。」って(笑)。これには、色々な意味があります。信頼関係の構築出来てる

現状の環境に、いくら社長と肌が合う人でも、社内の皆に合うかどうかは「縁」のものですから。特に女性が多いと難しいですからねえ。今では、嫁に出した娘達が実家の父親(社長)の会社を手伝いに出勤してくれているという感覚なのです。だから、(戸籍年齢は別にして)社員の子供は私の孫のような感じなのです。中には「私、大人になつたらエモーションで働きたい」という子もいます。今から、「人財確保」「人間共育」が出来ますね。(笑)

### 絶望の岸から

私は、過去に情と理のバランスを見失って、新規事業を準備した事により、五千万の損失を出しました。担保も無い家族的零細会社にとっては即死の状態でした。(銀行の追加融資が出来ませんでしたから)

まさに「二十四時間緊急病棟に駆け付けた家族の心境。映画タイトル的に言えば、絶望と戦い抜くこと。希望を信じ続けること。」でした。その時です。天からのメッセージとも

言えるインスピレーションが。「人生で最も大切な事は捨てることである。しょうも無いプライド、目に見える財産、全て捨て切れ！」と。失敗の中から学んで行くことで、人生に無駄はなくなると自覚しました。つまり、失敗を重ねても、そこから学ばなければ「無駄」になるんだ。と自分に言い聞かせています。「反省」するとはどういうことか自問自答したことがあります。「二度と同じ過ちを犯さないことを以って「反省」した証拠となるんだ」と自覚しました。証明しない限り周囲に納得は得られませんので。「反省」とは、己の言動に責任を取ることであり、己が何を為すべきかを考えることを言い、そして次に創意工夫をすることによって初めて「反省と言う」と自分で定義付けて、日々チャレンジしています。

### 最大と成るより、最良と成れ

あと四年で無借金経営になります。

1. 無借金経営
2. 手形を切らない

3. 社長と社員の共育を続ける  
これを実践していれば会社は潰れないと感じています。昭和二十一年に百日断食を為した、私の亡き師匠の言葉に「世の中にベストは無い。有るのはベターだ。」これらを実践するのにベターな状態が、私の思う「スモールイズビューティフル」なのです。もちろん業種業態にもよると思いますが、世の中の多くの会社が、何百万社と「スモールイズビューティフル」を実践することで、多くの雇用も促進出来るものと信じます。

最後に、私の持論で締めくくります。「人間として、深く関わり合う経営者と社員の信頼関係こそが、経営力を高める。経営者と社員の高い次元での認識の一致以外に、創造的な仕事は生み出されない。」  
「高い次元での認識の一致」が、中々難しいですが、私たちはチャレンジし続けます。

感謝。



香ぐわしい、  
川に、  
湧き出る、  
慈しみの心。  
香川湧慈拝